

2015年11月28日～2019年2月15日の間に
当科において「温熱負荷による発汗機能解析」研究に参加された方と、
2016年3月29日～2019年2月15日の間に
「健康成人とアトピー性皮膚炎患者に対する保湿剤とステロイド外用
剤の角層水分量、皮膚紋理、発汗滴数に対する影響の検討」研究に参加
された方へ

—「発汗状態と皮膚構造の定量を目的とした **Impression mold** 法画像自動解析ソフトウェア
開発」へのご協力のお願い—

研究責任者	川崎医科大学皮膚科学	教授	青山	裕美
研究分担者	川崎医科大学皮膚科学	臨床助教	木村	徹子
	川崎医科大学皮膚科学	臨床助教	浅沼	由美子
	川崎医科大学皮膚科学	実験補助員	林田	優季

1. 研究の概要

皮膚構造と発汗状態を解析するために行っている **Impression mold** 法（歯科用シリコンを皮膚表面にのばし鑄型を作成する方法：以下 **IM**法と記載しています。）の自動化画像解析技術を開発する事を目的としています。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2015年11月28日～2019年2月15日の間に川崎医科大学附属病院皮膚科または川崎医科大学総合医療センター皮膚科において「温熱負荷による発汗機能解析」研究を受けられた方もしくは2016年3月29日～2019年2月15日の間に「健康成人とアトピー性皮膚炎患者に対する保湿剤とステロイド外用剤の角層水分量、皮膚紋理、発汗滴数に対する影響の検討」研究を受けられた方の合計184名を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2022年3月31日

3) 研究方法

2015年11月28日～2019年2月15日の間に川崎医科大学附属病院皮膚科または川崎医科大学総合医療センター皮膚科において「温熱負荷による発汗機能解析」研究を受けられた方もしくは2016年3月29日～2019年2月15日の間に「健康成人とアトピー性皮膚炎患者に対する保湿剤とステロイド外用剤の角層水分量、皮膚紋理、発汗滴数に対する影響の検討」研究を受けられた方の※**IM**法サンプルをマルホ株式会社より無償提供していただいている実体顕微鏡を用いて撮影した画像を、広島大学 ナノデバイス・バイオ融合科学研究所に匿名化した状態で送ります。その画像を用いて、自動画像解析ソフトを作成します。

※**IM**法サンプル：ピンク色の歯科用シリコンを皮膚に塗布し、硬化させ作成した、皮膚の鑄型サンプル。

4) 使用する試料・情報の種類

情報：「温熱負荷による発汗機能解析」と「健康成人とアトピー性皮膚炎患者に対する保湿剤とステロイド外用剤の角層水分量、皮膚紋理、発汗滴数に対する影響の検討」でIM法を行った際に採取した匿名化されているサンプル画像

5) 外部への試料・情報の提供

この研究に使用する試料・情報は、以下の共同研究機関に提供させていただきます。提供の際、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し、提供させていただきます。

提供先：国立大学法人 広島大学 ナノデバイス・バイオ融合科学研究所

6) 試料・情報の保存及び二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学皮膚科学内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施設可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、倫理委員会にて承認を得ます。

7) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2019年4月30日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院 皮膚科

氏名：青山 裕美

電話：086-462-1111（平日：8時30分～17時00分）

※川崎医科大学総合医療センターで研究に参加された方につきましても、川崎医科大学附属病院皮膚科 青山までご連絡ください。

<研究組織>

研究代表機関名 川崎医科大学

研究代表責任者 川崎医科大学 皮膚科 教授 青山 裕美

共同研究機関 国立大学法人 広島大学 ナノデバイス・バイオ融合科学研究所 准教授 小出 哲士

3. 資金と利益相反

この研究では学内研究費を用いて行われる予定です。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。